

## 平成 27 年度第 2 回群馬県総合教育会議 議事概要

1 日 時 平成 27 年 11 月 24 日（火）14:30～15:40

2 出席者

〔会議構成員〕大澤知事、教育委員会委員（眞保委員長、坂本委員、小池委員、藤原委員、吉野教育長（天田委員長職務代行者は欠席））

〔事務局〕

教育委員会事務局 佐藤教育次長、田村教育次長、荒井総務課長 他 5 名  
知事部局 深代総務部長、津久井総務課長、加藤文化振興課長、  
藪原スポーツ振興課長、鬼形工業振興課長 他 5 名

3 議題

群馬県の教育、文化、学術及びスポーツの振興に関する大綱（素案）について

【概 要】

1 開会

2 あいさつ

大澤知事からあいさつ。

3 議事：「群馬県の教育、文化、学術及びスポーツの振興に関する大綱（素案）」について

- 資料 1 「群馬県の教育、文化、学術及びスポーツの振興に関する大綱（素案）」及び資料 2 「群馬県の教育、文化、学術及びスポーツに関する大綱」と関連する各計画等との対応について」を事務局から説明。

○質疑・意見交換

（眞保委員長）

基本目標に「社会全体で」という言葉が入ったのはよいと思う。基本の方針と施策の方向性については、特に意見はない。

中身では、教育に関する事項で何点か気になる点がある。

「1 郷土への誇りと愛着の育成」は、非常に重要なことだとは思いますが、人生設計を描くに当たってベースとなるものであることから、3 番目にある、「人生設計を描く力の育成」の中（の 1 つ）に位置づけてはどうかと思う。

「豊かな人間性」については、規範意識と人間関係形成能力だけでは足りないと思う。この 2 つに加えて、創造性の要素も加えられればと思う。

特別支援学校高等部の新設は職業教育を考えると必要なことであり、将来の自立した全員参加の県民を作っていく意味で、是非このまま残して欲しいと思う。

（坂本委員）

全体的によく考えられているが、いくつか気になった点があった。

3 番の「人生設計を描く力の育成」というと、すごく個に関していて、大綱に記載するには狭い印象がある。「未来の社会を形成していく力を育成」とか、もっと広がりを感じられる題だといいたいと思う。

1 番目の「郷土への誇りと愛着の育成」は、大事なことだと思うが、教育基本法も踏まえると、項目の順番を替えた方がいいと思う。

4 ページの 4 番、「信頼される魅力的な学校づくり」の中に「家庭や地域の意見を生かした開かれた学校づくりを推進します。」とあるが、開かれた学校とは家庭や地域の意見を生かすだけでなく、学校側からの作用として、地域資源や活力を活用して地域の特色を生かした教育をすること、学校の資源（教育力）を地域資源に生かしていくという要素が入ってくるはず。例えば「家庭や地域社会と連携する学校づくり」などとすると、相互の関係がみえてくるのではないか。

グローバル社会に対応した人材育成という視点の扱いが小さいことから、もっと大きな項目として扱った方がよいのではないか。

5 ページの 2 番目の「本県が誇る歴史文化遺産の活用・発信」にある、「群馬=東国文化」という表現は、もう少し丁寧に書いた方がわかりやすい。例えば「古代東国文化の活用・発信により、群馬が古代東国文化の中心地であり、東日本最大の古墳大国であるという認識を定着させ、群馬の魅力をも～」としてはどうか。

5 ページの 3 番のところで、産学官金連携とあるが、科学技術指針では、「金」（金融機関）が入っていないかったが、何か加えた理由はあるのか。

（小池委員）

眞保委員長と坂本委員から気になるところはだいたい発言いただいた。世界遺産の問題や、東国文化の話には、共通するところがあると思う。東国文化の話も、富岡製糸場も、群馬の先人が、他からの新しい技術を積極的に取り入れて、進取の気質でもって、他をしのぐ発信をしてきたことの証左である。（群馬の歴史は）今のグローバル化と似たようなところがある。

グローバル化した現代社会は、情報に境界がない時代である。群馬の発展やそれを支える人材育成には、学校教育をした上で、子どもたちが世界的な視野でもって物事を理解して考え、そこから過去の東国文化や富岡製糸場という群馬のすばらしさを知って、これから先につなげていくことが必要ではないかと思う。

大綱の流れとしても、最初に東国文化の内容が来てしまうと、その広がりがわかってもらえるのが心配。項目の順序を入れ替えるなり、あるいはグローバル化の話はどこかにはめ込む必要があると思う。

他にはない魅力があれば、情報は自然に流れていくし人が集まってくる。今のグローバル化の時代にも、既に過去の先人がやってきたことがあるのだと子どもたちに理解させていくことが大事。魅力があって初めて人が集まってくる。

今はものを作って産業を発展させる時代から、情報を活用して産業をつくる時代に移ってきている。東京からの距離とか、いろいろな物理的な問題を越えた、いろいろな活性化が必要。そういう中では教育は、距離感なしでいろいろできる。そういう前向きな部分をぜひわかるように入れていただきたい。

5 ページの一番最後に県内大学のことが書いてあるが、県内にある国立大学等も含めて、例えば新しい産業の創出等の視点についても、加えてはどうか。

6 ページで、「高齢者の健康維持」という言葉を加えてもらいたい。また、障害者のスポーツについて、障害者と健常者が一緒に楽しめる機会を設けていただきたい。オリンピックとパラリンピックを分けて表現をするのはいかがか。

（藤原委員）

子どもの自殺やいじめの増加等、多くの問題が起きており、心を痛めている。子どもたちが健やかに育ちにくい環境になっているのか、とも思う。こうした観点から大綱を見ると、1-2で「確かな学力、豊かな人間性、健やかな体の育成」という中の、「豊かな人間性の育成」という項目の中に2つ記載がされているが、大事なポイントであり、

(仮にこの項目について見直しを行う場合であっても) 大綱に残してもらいたい。そうすれば、本県のいじめ問題対策を象徴する柱になる。

次に、子どもたちの安全・安心の観点では、大綱の4番「信頼される魅力的な学校づくり」の中に「すべての子どもが夢と希望をもつことができる、安全・安心な教育環境を確保します。」とある。この点について、大綱の素案の記載だけでは、内容が弱いと思う。教育振興基本計画も参考に、(子どもたちの安心・安全について) 群馬県では取り組んでいるということがわかるようにしたい。

次に、基本目標のスローガンで「社会全体」でとあったが、例えば、県内の防犯ボランティア団体数及び団体への加盟者数は、764団体、76,110人であり、群馬県の人口に占める割合は4%弱だけ。今後、社会全体で人を育てるという視点は大切になると思う。「社会全体」という言葉は、是非とも残していただきたい。

「郷土の魅力に磨きをかけ」というところと、基本方針の1番目という点に意見があるが、郷土の誇りというのは欠かせない視点だと思う。

(大澤知事)

大綱の中に、「人生設計を描く力の育成」というのがあるが、「我々が子どもの時、人生設計は誰が描いていたのだろう」と考えながら聞いていた。

当時は、いい大学に入学して、一流企業に就職するのがいい人生。その考え方は私たち自身の子どもの頃までは似たり寄ったりだったと思う。

ただ、それが、社会が非常に多様化し、変わってきている。群馬県もいろいろ魅力がある企業があるわけで、そういった魅力ある企業と子どもたちとをどのようにマッチングするのが大事だと思う。

今は、我々が当時考えていた時代とまるで違う時代になっている。子どもたちの「人生設計を描く力」を育成しなければいけないし、そのためには教育が必要。

本当に自分がやりたいことをしっかりと見つめて、その職につくのが、子どもたちにとって一番の幸せなのだろうと感じている。

(眞保委員長)

郷土への誇りは何で醸成されるかと考えた時に、歴史文化遺産も大切だが、やっぱり人ではないかなと考えさせられた。

我々群馬県の大人たちが子どもたちを慈しんで、どのような形で子どもと向き合っていくのかを考え、もう1回襟を正さないといけないと思う。自分たちの地域は自分たちで支える、という自治の精神が私たち大人も弱くなっているのではないか。

私たち大人が、きちんと子どもを育てれば、(子どもは)群馬を思い出してくれる。そう考えると、「人」という観点から、「私たち大人も共に役割を果たしていく」といった要素を盛り込んでどうか。例えば家庭と地域と学校との相互関係や大人の姿勢等も盛り込んでいく必要があるのかもしれない。学校そのものも県民が作り上げていくといったことが入った方がいいと思う。

次に、グローバル化については、外出しで書くことが必要。これからどんな産業が日本を成長に導いていくのかというのは、簡単には予測できないが、私は海外直接投資になるのかなと思う。そうすると、世界に羽ばたいていくことが必要であり、そうしたことができる人材と考えると、どこかでグローバル化ということも謳っていく必要がある。そうしないと、子どもたちも世界に目を見開かない。

(坂本委員)

社会全体として人を育てていくことが一番大切だと思うし、郷土の魅力に磨きをかけ

ていくことも大事だと思う。群馬の魅力というのは、人間の良さというか、暖かさというのもあるという気がする。そのような要素も加えることも検討してはどうか。

それから、産学官金の「金」が加わったのは、どのような理由があるか。

(大澤知事)

今、「金」との連携が始まっているところ。群馬県でも、企業の海外進出の関係などで金融機関が政策の中に入り込んで、一緒になって取り組んでいる。(科学技術振興指針が策定された時期には)「金」という概念はなかった。最近の動きだと思う。

(小池委員)

子どもは保護者と学校と社会が全部組み合わさらないと育たない。社会が関わらないと人生設計も描けず、常識もできない。ただ、保護者も社会も、時代とともにものすごい勢いで変わっている。

群馬の一番大きなメリットというのは、家族というものを常に意識していただけることだと思う。三世代が同居、または同居していなくても近くに住んでいて、三世代でもって子育てをする、あるいは家族全体を見守ることができていると思う。ただ、大変残念なのは、新しい世代が群馬に定着する、あるいは戻ってくるつもりがあっても、なかなか実現できない。例えば東京から群馬に帰りたいたって思っても、実際の群馬での生活状況を考えると、やっていけるだけの仕事を見つけられるか、特に大学で専門性を身につけてしまうとなかなか難しいと思う。

今は、どんなにいい企業があろうと、家庭が温かろうと、地域が豊かであろうと、それを世界に向けて発信することが必要。群馬県は知名度の点ですごく遅れているけれども、それはたぶん情報発信の仕方が下手だからなのではないかと思う。まずそれを工夫するだけで、ずいぶんものは変わるのではないか。それをひっくるめて教育の問題を考えて欲しい。大綱に入れられるのかどうかはわからないが、(情報発信については)工夫していただかないといけない。

(藤原委員)

社会全体でという点でもう少し話をすると、社会(参加の担い手)は、高齢者が多数だと思う。(若手の)育てられた人はどこに行ったのかなと思う。育てられた人はどの世代になると(社会に)帰ってくるのか、人の還元のサイクルはどうなっているのかなと思うときもある。

(吉野教育長)

本日の御意見を基に、所要の修正を行いたい。様々な意見をいただいたので、どのレベルでどう織り込むと全体的にまとまるか、これから工夫をさせていただきたい。

(大澤知事)

この後、本日の御意見も踏まえて、事務局が所要の修正をするが、基本的には、この素案を基に、大綱の策定を進めていくということによいか。

**【了承】**

#### 4 閉会